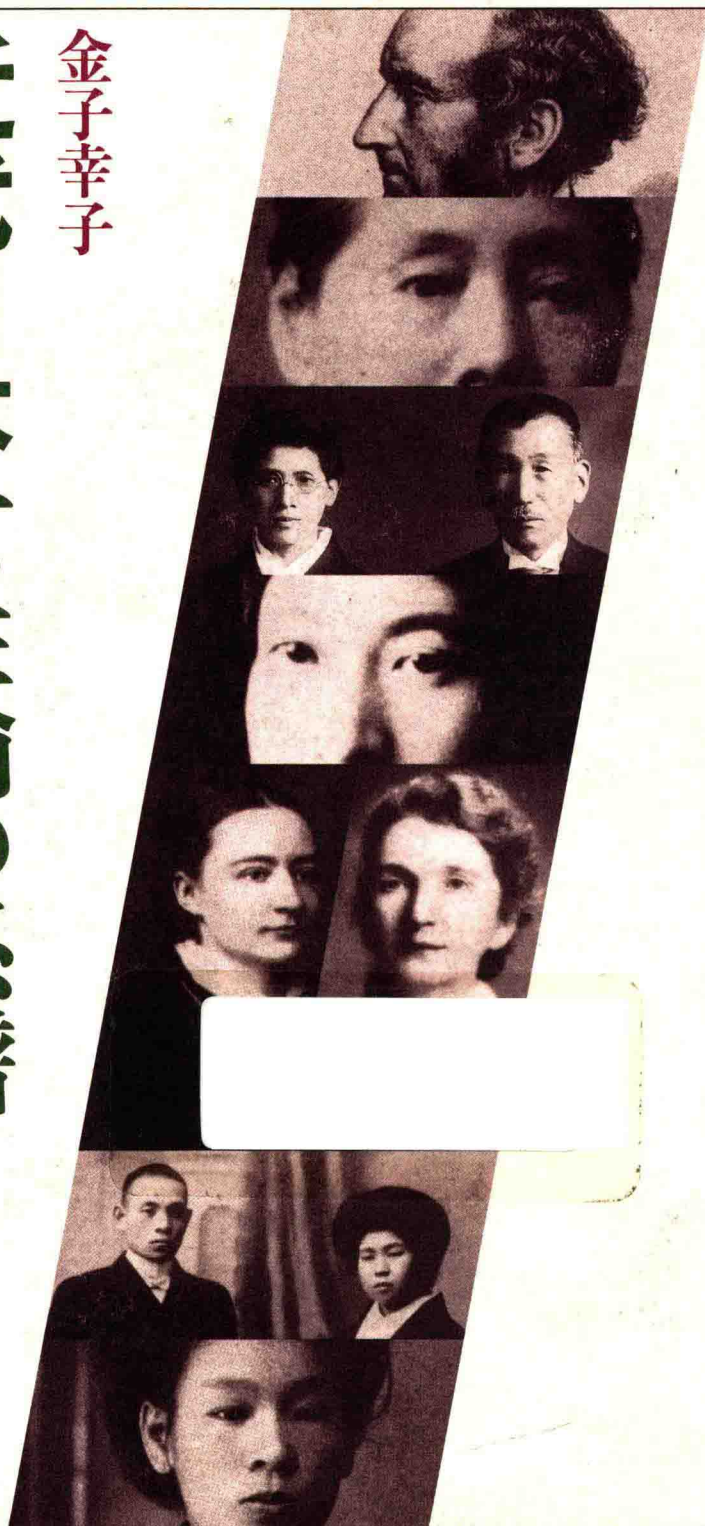


近代日本女性論の系譜

金子幸子



不二出版

近代日本 女性論の系譜

金子 幸子

不二出版

著者——金子幸子

定価——三、八〇〇円＋税

発行——一九九九年一月二五日初版第一刷

©一九九九

近代日本女性論の系譜

発行者——船橋治

ISBN4-938303-02-7

発行所——不二出版

〒一三一〇〇三三 東京都文京区向丘一―二―二 電話〇三(三八二) 四四三三 振替〇〇一六〇―二―九四〇八四

組版——埼玉福祉会

印刷所——三進社

製本所——青木製本所

著者紹介——金子幸子(かねこ さちこ)

名古屋短期大学教授

一九四六年 埼玉県に生まれる

一九七七年 国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程卒業

一九八四年 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程満期退学

一九九八年 学術博士 (Ph.D.)

共著 『日本女性の歴史』全三巻、角川書店、一九九二―一九九三年

*Japanese Women: New Feminist Perspectives on the Past, Present and Future, The Feminist Press
at the City University of New York, New York, 1995*

共訳 アラン・T・モリヤマ『日米移民史学 日本・ハワイ・アメリカ』PMC出版、一九八八年

近代日本女性論の系譜

目次

一 夫一婦論、母性保護論争から身の上相談へ 9

I 研究の目的と視角 9

II 研究の対象 13

一 一夫一婦論とその展開 13

二 母性保護論争、主婦論、自発的母性論 15

三 新聞・雑誌の読者欄 身の上相談を中心に 17

第二章 一夫一婦論とその展開 21

第一節 明治期啓蒙の課題と一夫一婦論 津田真道の思想を中心に 23

I 啓蒙期『明六雑誌』の女性論 23

II 啓蒙思想家津田真道(一八二九～一九〇三年)の思想構造 25

一 自然界の理解 27

二 「法」と「道」 社会観 29

三 法の普遍性と国家観 31

四 人間観と女性論 34

第二節 家庭における女性の自立 J・S・ミル女性論の受容過程 44

I J・S・ミル(John Stuart Mill, 1806～1873)の女性論 45

II 明治啓蒙思想に見るミルの影響 48

III 自由民権期におけるミル女性論の訳出 51

IV 明治憲法下の国家体制確立期 福沢諭吉と植木枝盛の女性論を通して 55

第三節 一夫一婦から廃娼へ 矢島楫子の思想と行動 66

I	矢島楫子(一八三三〜一九二五年)と婦人矯風会の創立	66
II	WCTUとフランスス・ウィラード(Frances E. Willard, 1839〜1898)	70
III	婦人矯風会活動の特徴	71
IV	矢島楫子の思想	74
一	人間観と女性論	74
二	社会観と国家観——伝統と変革	78
補論	不婚論の登場——『婦女新聞』読者欄を手がかりに	88
I	不婚論争(一九〇〇〜一九〇一年)の内容	89
一	第一次不婚論争	89
二	第二次不婚論争	91
II	創刊者福島四郎(一八七四〜一九四五年)の女性論	92
III	不婚論の意義——一夫一婦論の支流として	95
	母性保護論争と主婦論	101
第一節	大正期の母性保護論争——与謝野晶子を中心に	103
I	『婦人公論』の創刊と母性保護論争	104
II	与謝野晶子(一八七八〜一九四二年)の思想——女性論に焦点をあてて	109
III	経済的自立・母性尊重・社会主義——母性保護論争の行方	117
第二節	母性主義への傾斜——エレン・ケイ女性論受容の方法	126
I	エレン・ケイ(Ellen Karolina Sofia Key, 1849〜1926)の女性論	128
II	『恋愛と結婚』——日本における紹介と翻訳	132

産児制限と身の上相談に見る女性論

177

第一節 産児制限の提唱と実践——マーガレット・サンガーの女性論とその受容

179

I マーガレット・サンガー (Margaret Sanger, 1883～1966) の女性論 180

II 日本における紹介と翻訳 185

III 石本静枝 (加藤ジヅエ、一八九七～) の女性論 190

IV 山本宣治 (一八八九～一九二九年) の女性論 193

V サンガー女性論の影響とその行方 196

第二節 昭和戦前期の身の上相談——『読売新聞』相談欄と河崎なつ思想

206

I 身の上相談欄「悩める女性へ」の開設 206

III 平塚らいてう (一八八六～一九七一年)——「恋愛の自由」から「母性の尊重」へ 134

IV 山田わか (一八七九～一九五七年)——「経済的自立」から「母性の尊重」へ 137

V ケイ女性論の影響とその問題 141

第三節 主婦としての自立——『主婦之友』と石川武美の思想 149

I 石川武美 (一八八七～一九六一年) と『主婦之友』の創刊 150

II 記事の内容と分類 153

一 家庭経営に関する記事 154

二 身の上相談と告白手記 156

III 石川武美の思想 161

一 女性論と人間観 161

二 社会観と国家観 168

II	戦前の「家」制度と民法改正の試み	207
III	身の上相談の変遷	209
IV	相談に見る悩みの特質——「家」制度の下で	211
一	夫婦像	212
二	親子像	214
三	職業観	214
四	貞操観	215
五	思想・信仰の問題	217
V	河崎なつ（二八八九—一九六六）の思想——身の上相談を通して	218
VI	身の上相談の意義・役割——戦後に受け継ぐもの	223
結語		237
追記		245
あとがき		249
文献目録		253
年譜		4
人名索引		18
各章写真出典一覧		23

近代日本女性論の系譜

目次

序論——一夫一婦論、母性保護論争から身の上相談へ——9

I 研究の目的と視角——9

II 研究の対象——13

一 一夫一婦論とその展開——13

二 母性保護論争、主婦論、自発的母性論——15

三 新聞・雑誌の読者欄——身の上相談を中心に——17

第二章——一夫一婦論とその展開——21

第一節——明治期啓蒙の課題と一夫一婦論——津田真道の思想を中心に——23

I 啓蒙期『明六雑誌』の女性論——23

II 啓蒙思想家津田真道（一八二九—一九〇三年）の思想構造——25

一 自然界の理解——27

二 「法」と「道」——社会観——29

三 法の普遍性と国家観——31

四 人間観と女性論——34

第二節——家庭における女性の自立——J・S・ミル女性論の受容過程——44

I J・S・ミル (John Stuart Mill, 1806~1873) の女性論——45

II 明治啓蒙思想に見るミルの影響——48

III 自由民権期におけるミル女性論の訳出——51

IV 明治憲法下の国家体制確立期——福沢諭吉と植木枝盛の女性論を通して——55

第三節——一夫一婦から廃娼へ——矢島樞子の思想と行動——66

I	矢島楫子(一八三三〜一九二五年)と婦人矯風会の創立	66
II	WCTUとフランスス・ウィラード(Frances E. Willard, 1839〜1898)	70
III	婦人矯風会活動の特徴	71
IV	矢島楫子の思想	74
一	人間観と女性論	74
二	社会観と国家観——伝統と変革	78
補論	不婚論の登場——『婦女新聞』読者欄を手がかりに	88
I	不婚論争(一九〇〇〜一九〇一年)の内容	89
一	第一次不婚論争	89
二	第二次不婚論争	91
II	創刊者福島四郎(一八七四〜一九四五年)の女性論	92
III	不婚論の意義——一夫一婦論の支流として	95
	母性保護論争と主婦論	101
第一節	大正期の母性保護論争——与謝野晶子を中心に	103
I	『婦人公論』の創刊と母性保護論争	104
II	与謝野晶子(一八七八〜一九四二年)の思想——女性論に焦点をあてて	109
III	経済的自立・母性尊重・社会主義——母性保護論争の行方	117
第二節	母性主義への傾斜——エレン・ケイ女性論受容の方法	126
I	エレン・ケイ(Ellen Karolina Sofia Key, 1849〜1926)の女性論	128
II	『恋愛と結婚』——日本における紹介と翻訳	132

III	平塚らいてう(一八八六～一九七一年)——「恋愛の自由」から「母性の尊重」へ	134
IV	山田わか(一八七九～一九五七年)——「経済的自立」から「母性の尊重」へ	137
V	ケイ女性論の影響とその問題	141
第三節	主婦としての自立——『主婦之友』と石川武美の思想	149
I	石川武美(一八八七～一九六一年)と『主婦之友』の創刊	150
II	記事の内容と分類	153
	一 家庭経営に関する記事	154
	二 身の上相談と告白手記	156
III	石川武美の思想	161
	一 女性論と人間観	161
	二 社会観と国家観	168
	産児制限と身の上相談に見る女性論	177
第一節	産児制限の提唱と実践——マーガレット・サンガーの女性論とその受容	179
I	マーガレット・サンガー(Margaret Sanger, 1883～1966)の女性論	180
II	日本における紹介と翻訳	185
III	石本静枝(加藤シヅエ、一八九七～)の女性論	190
IV	山本宣治(一八八九～一九二九年)の女性論	193
V	サンガー女性論の影響とその行方	196
第二節	昭和戦前期の身の上相談——『読売新聞』相談欄と河崎なつ思想	206
I	身の上相談欄「悩める女性へ」の開設	206

II	戦前の「家」制度と民法改正の試み	207
III	身の上相談の変遷	209
IV	相談に見る悩みの特質——「家」制度の下で	211
一	夫婦像	212
二	親子像	214
三	職業観	214
四	貞操観	215
五	思想・信仰の問題	217
V	河崎なつ（二八八九—一九六六）の思想——身の上相談を通して	218
VI	身の上相談の意義・役割——戦後に受け継ぐもの	223
結語		237
追記		245
あとがき		249
文献目録		253
年譜		4
人名索引		18
各章写真出典一覧		23

近代日本女性論の系譜

序論

一夫一婦論、母性保護論争から身の上相談へ

I 研究の目的と視角

本書の目的は、近代日本における女性論を明治期の一夫一婦論とその展開、大正期の母性保護論争と主婦論、昭和戦前期の身の上相談へと辿り、その系譜を思想史の方法によって考察することにある。明治・大正期の重要な女性論争を軸にしながら、女性の生活意識、外国女性論の受容を含みこんだ思想的系譜が明らかにされる。

日本の女性史には、戦前に高群逸枝の婚姻史、そして戦後間もなく出された井上清による階級史観に基づく女性史などの先行研究がある⁽¹⁾。一九六〇年代末から七〇年代初めにかけては村上信彦が『明治女性史』全四卷(理論社、一九六九)